

ISBM 2024 Travel Award : 学会レポート

産業医科大学 整形外科 塚本 学

平素より誠にお世話になっております。ISBM 2024 Travel Award を拝受いたしました産業医科大学 整形外科の塚本 学（つかもと まなぶ）と申します。この度は、大変栄誉ある賞を賜り、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。私は、9月26日から9月30日まで、トロント・ブルージェイズの本拠地であるロジャーズ・センター近くの Metro Toronto Convention Centre で開催された American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) と、9月30日から10月3日まで、名門トロント大学近傍の MaRS Centre で開催された International Society of Bone Morphometry (ISBM) に参加して参りました。



図1：敷地内に多数のリスが生息する名門トロント大学（左）、ISBMの会場となった MaRS Centre（右）

最近の私の研究テーマである慢性閉塞性肺疾患合併骨粗鬆症の病態解明に向けた骨形態計測学を中心とした調査を、多くの先生にご協力いただきながら進めているところで、その研究成果として今回は、“Impact of Pulmonary Emphysema on Bone Quality”と題した演題をそれぞれの学会で発表してきました。ASBMR 用と ISBM 用のポスターを作成し、ISBM 用のポスターを両学会への参加アピールのつもりで ASBMR に展示していたら、2日後には完全に撤去されていました、汗。回収されたポスターの中から慌てて探し出すというハプニングもございましたが、ポスター展示中は学会にご参加くださった各国の先生方から貴重なご意見を頂戴しましたので、それらが更なる調査の発展に寄与するであろうと期待しております。

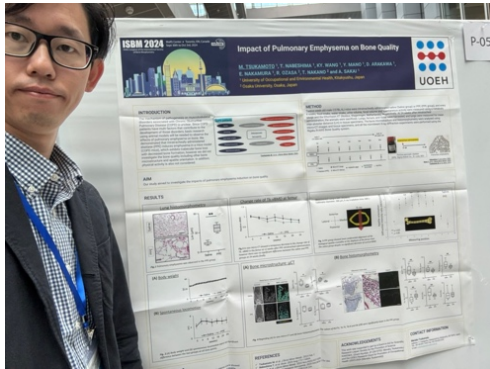


図2：ASBMR 会場内で一度紛失したポスターです。何とか探し出して、無事に ISBM 会場で展示することができました、汗。

また、ASBMR 後に開催されました ISBM の welcome reception では参加者同士が自己紹介をし合うところから始まりました。日本骨形態計測学会（JSBM）と同様、和やかでアットホームな雰囲気の中、会長の Erica L Scheller 先生が歓迎のスピーチを行い、ISBM の歴史や変遷、そして未来についてお話しくださいました。その中で紹介のあった論文（Scheller EL, et al. Celebrating 50-years: the history and future of the International Society of Bone Morphometry. JBMR Plus. 2024 Jun 12;8(7):ziae070.）を帰りの飛行機の中で拝読し、多くの日本の先生方（第5回会長 高橋榮明先生、第13回会長 野田政樹先生）が骨形態計測学の発展に携わってきたことを改めて知りました。そして、ISBM が今もなお、臨床医や科学者、産業分野の関係者にとってオープンに議論あるいは意見交換をする場であるように、JSBM もまたそうあるべきです。骨の健康分野におけるあらゆるニーズに応えるべく、基本に忠実でありながらも、本学問を発展かつ変化させていかなければならないことを痛感いたしました。JSBM 発展のための課題は山積みであり、今後、我々はそれらを一ずつ解決していく必要があります。



図3：ISBM 会長の Erica L Scheller 先生、オープニングの基調講演者である Christopher Hernandez 先生、ISBM 2024 で Juliet Compston Travel Award for Clinical Research in Morphometry を受賞された鳥取大学 柳樂慶太先生。

“Morphometry” とは、形態の定量的分析を意味し、2D および 3D 表現に意味のある数値出力を割り当てることに重点を置いています。“Bone morphometry” という用語は、従来は骨のサイズや形状の両方を含むものでしたが、骨質や細胞レベルの指標、骨形成の動的指標、リアルタイムでの細胞移動やその再構成、そして、最近では空間オミクス技術による骨組織における遺伝子、タンパク質、代謝産物の正確な分布を示すものへと進化してき

ています。骨形態計測学とは何か？その果たすべき使命とは何か？我々は、職種間・世代間の垣根を超えて、今一度、本学問について再考し議論する必要があります、若い世代にその魅力を伝えていかなければなりません。今回の ISBM 参加で様々な “bone morphometry” を見る事ができました。この魅力的な世界を引き続き他の先生にも体験していただきたいと思いましたので、2年後の ISBM（ロンドン）の Travel Award もぜひご検討いただきました幸いです。この度は、ISBM 2024 Travel Award を賜り誠にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

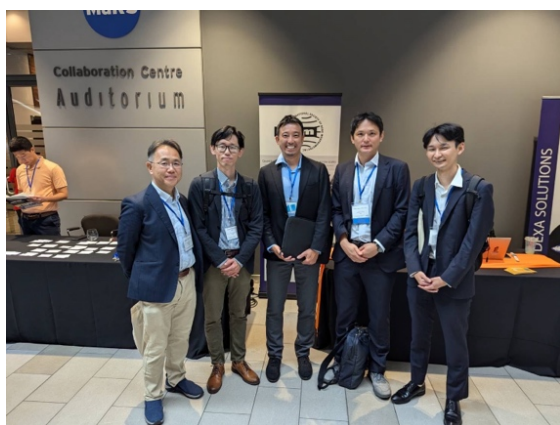


図 4：ISBM に参加された日本の先生方。左から、北海道大学 飯村忠浩先生、筆者、Duke 大学留学中（昭和大学）石川紘司先生、鳥取大学 柳樂慶太先生、東京大学 辻直紀先生。